

事業報告書（令和6年度）

事業名 おもい・つなぐ・むすぶ part2 映像制作と演劇発表「文学ってなに？」・
「ハチドリのひとしずく」および地域課題をともに考える交流会

団体名 劇団公民館 京山 担当者名 大山 央子

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

日時：令和6年7月6日（土） 11:00～13:00

場所：岡山県総合グラウンド グラウンドクラブ南側の東屋の付近

参加対象者：劇団員

人数：7人

内容：交通安全への意識を促す映像のテスト撮影。

“一時停止の必要性”を観る側に考えてもらえるような映像、一時停止を促す一歩になるようなテーマづくり。

歩行者役のこどもたちと、自転車役のお母さんが丁字路で鉢合わせる設定で撮影。
こどもたちが立ち止まり「どうぞ」と道を譲る。自転車役がお礼を言って先に去り、
その後こどもたちが嬉しそうに走り去る。というシーンを撮影。

日時：令和6年10月

内容：アニメーションと多くの言葉を取り入れた映像制作を行った。

「文学とは何か？」という、文学をテーマに感じることを考えることを表現した映像作品を制作した。



日時：令和7年1月25日（土）13:10～14:00 26日（日）15:00～16:00 場所：京山公民館 参加対象者：劇団員および、地域の方々ほか 人数：約20人＋観客約50人 内容：第20回岡山市京山地区 ESD・SDGs フェスティバルにて演劇発表 および地域課題をともに考える交流会
2. ESD の視点
① 事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか 演劇発表「文学ってなーに？」では、“文学創造都市おかやま”である岡山市に住む子供たちが、『文学の力』を観てくださる方に感じていただけたよう演じた。身近に当たり前にある文学に、あらためて触れてみたいと思っていただけたのではないかなと思う。 「ハチドリのひとしずく」では、場面ごとにセリフの担当や動きを子供たち自身で考え演じた。一人一人の小さな行動でも、積み重ねればいつしか大きな成果を生むということが子供たちにも大きな気づきとなり、その結果観てくださる方にも想いの届く作品となった。 小学校低学年の子供が多いチームでありながら、より良い作品になるよう活発に意見を出し合い協力して作品作り、そして発表ができた。また練習時にはお互いを思いやり尊重しあうことで、良い関係性が築くことができた。国籍の違うメンバーとも積極的にコミュニケーションを図り、助け合うことができた。 交流会では地域の方々も交え、地域課題の1つである交通安全についての話し合いや、標語を作ることで、課題の意識を高めることができた。
② どのように学び合いを取り入れたか 様々な年代や国籍の方が作品づくりに参加する中で、互いに認め合い協力することで作品づくりの「面白さ」や「向上心」を学べた。 子供が主体となり、積極的にアイデアを出し合って試行錯誤をした。大人はサポート役として、補助的な役割を果たした。 他団体との交流も取り入れ、新たな視点も持てる機会を作れた。
③ どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか 地域の方々、市長や学生に観てもらい、感想や意見を求めた。演劇題材も他団体からの想いを形にすることで実践できた。練習での成果をお客様に観ていただけて、たくさんの拍手やお褒めの言葉を頂けたことが子供たちの大きな自信へつながったと感じた。 交通安全をテーマにした動画を撮影していた経験からも、交通安全に対する意識が高まっており、フェスティバル内での交通安全についての交流会では積極的な参加ができた。
3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）
地域コミュニティとしての京山公民館と連携して舞台作品を創ることで、地域の方々な

ど、参加者とも人間関係の構築ができ、多様な世代が交流する機会が得られた。また、地域課題の一つである交通安全について交流会で話し合ったり標語を作ったりする中で、いろいろな世代、立場の方との交流が持て、課題について再認識することができた。

子供たちが積極的に交流会に参加・発言したことにより、活発な交流会となったと感じた。

参加者からは感想文の提出、地域の方々からは感想をいただいた。

4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

地域だけではなく、広く作品を観てもらうことで、活動している多様な世代・立場・国籍の違う人たちとの交流を広めていきたい。そして彼らが切磋琢磨して作ってきた地域問題解決に繋がるテーマに込めた作品の想いも広めていきたい。子供たちが中心となり、多様な世代とのパイプ役となることで地域のさらなる活性化を目指す。さらに岡山市とも連携して活動の場を増やしていきたいと考えている。